



表紙の写真は、星を祭る昨年の  
四天王寺（大阪市）の七夕祭り。

黄昏せまる中、僕も五色の短冊から色を選び願い事を書いて、笹に飾ろうと  
思ったのですが、既に短冊がギッシリで僕の手が届く高さにはなかなか結ぶ  
スペースがありません。（左の写真）

願いごとに何を書いたかは定かではないですが、「背が高くなりますように」  
って書き直そうかと思ったことは覚えています。（+\_+）



ホントは  
五十歳なけど

さて、甲子園の星を目指す高校球児の願いがある意味叶ったのかもしれませんが。

明るいニュースが少ない中、嬉しいニュースがありました。

高野連（日本高等学校野球連盟）は今年3月に新型コロナウイルスの影響でセンバツ甲子園大会を中止と  
した後も、既に出場が決まっていた高校球児の救済策の検討を続けてきました。そして6月10日、春の  
甲子園に出場できるはずだった全国32校を招待し、交流試合を行うことを発表しました。

各チーム一試合だけの交流試合とのことですが、甲子園の土を踏みたいという球児たちの思い、子どもたち  
に甲子園をなんとか経験させてあげたいという連盟や大会関係者といったおとなたちの思い。そんないろん  
な人の切なる思いが結実したように感じています。

なんとかこのまま無事に実現に至ってほしいと願っています。

油断できない状況がまだ続きますが、なんとか新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着きつつあるようです。  
時差通勤や学校閉鎖、テレワークや在宅勤務等、外出を抑制し接触機会を減らす施策は、それなりに効果  
があったことと思います。まだしばらくはマスク越しの遠慮がちな会話も続くでしょうし、このまま在宅  
勤務やテレワークという距離をおいた働き方が浸透する職場もあるでしょう。

**対面や接触機会が減るということは、対話が減ることにつながります。**

ZOOM等ネット会議の活用が急速に普及していますので、そんな新しいコミュニケーションのスタイル  
に対応することも大切ですが、それだけではなく、改めて仕事の目標や目的、役割や会社の存在意義等々、  
「**思いの共有**」を図ることを考えてはいかがでしょう。

七夕祭りは「星」祭りともいいます。美しい星空はロマンチックですよ。

彦星と織姫の話も、そんなロマンチックな情景から生まれたのではないのでしょうか。

ご存知の方もありませんが、かの文豪・夏目漱石が、英語教師をしていた頃、「I love you」  
を「我君を愛す」と和訳した教え子に対し、「**月が綺麗ですね**」と訳し直したという逸話があります。

（実際に漱石がそう翻訳したという証拠はどこにもなく都市伝説ではないとも言われています）

ふたりが直接対面していなくても同じ時間を共有し、美しい月を眺めることで気持ちを共有し  
心を通わすことによって愛が確認できる・そんな奥ゆかしい情緒を感じさせる話です。

『星の王子さま』の作家フランスのサン＝テグジュペリにも次のような言葉があります。

「**愛は見つめ合うことではない。ただ同じ方向を見ることだ**」。さすが星の王子様（の作者）！

見ている方向が同じなら、ソーシャルならぬ**星空の下のディスタンス**なんてさして  
大きな問題ではないのかもしれないね。



オレ言うたっけ？



星空のディスタンス  
って知ってる？

アルフィー  
の名曲でしょ

アヴェニール労務事務所

avenir